

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

公表:令和 6年 3月 8日

事業所名 放課後デイみんと

保護者等数(児童数) 13 回収数 11 割合 84.6 %

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7	4				
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	8	2	1		・特定の職員のみしかわからない(専門性)	・対応する職員は保育士資格等を有しております。詳しい資格につきましては邑美園玄関に掲示しておりますのでご確認ください。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	10	1				
適切な支援の提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	9	1	1			
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	10	1		1		
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	3	8			・したことがないので何とも言えない。 ・知らない。 ・あまり知りません。してるようなしてないような	・長期休暇時には高校生ボランティアに来てもらい交流を図りました。同世代の子との関わりを持つことは出来ませんでした。
保護者への説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	11					
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	10	1				
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8	3				
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	6	3	1	・参加したことが無いのでわかりません。 ・したことがない。 ・保護者会開催の経験なし。 ・保護者同士はないと思います。	・感染症予防対策の観点より、今年度も機会を設けませんでした。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8	3				
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	9	2				
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	11					
14 個人情報に十分注意しているか	8	3					
非常時等の対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	4	5	1	1	・保護者として説明されたかもしれないけど覚えていないです。	・各々のマニュアルは事業所内にあります。確認したい方はお気軽に声をおかけください。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	5	4	1	1	・知りません。	・避難訓練は定期的に実施しています。
満足度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	8	3			・同じ小学校の友達がいなくて「いやだ～」と言います。	・みんなでも仲間と良好な関係を築くことができるよう支援を行っていきます。
	18 事業所の支援に満足しているか	10	1			・みんなに楽しく通わせていただいています。ありがとうございます。 ・いつもありがとうございます。 ・本人が一番なのですが、みんなの放課後の利用で宿題が間に合わず、寝る時間が遅くなってしまっているの、一つでもしてもらっていただけると助かります。	・ご意見ありがとうございます。今後も利用者の皆さんが満足の出来る活動を提供していきます。 ・宿題への声掛けはみんなでも行っていきますが、実施するのは本人の気持ち次第となる事をご了承ください。また、気になることがありましたらお気軽に声をおかけください。

\*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月8日

事業所名 放課後デイ みんな

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	・体育館活動や屋外での活動を取り入れ狭さを感じさせないように努めている。 ・もう少し余裕があれば良いと思いますが、あまり無理は言えない所があります。理想的な十分なスペースを設ける事はどの施設でもなかなか難しいと思います。 ・長期休み毎日利用があった時、クールダウン等他用途のスペースが必要な時がある。机を動かす、パーテーションを活用する等している。	
	2	職員の配置数は適切である	6		・普段の利用では概ね適切。送迎、外出の際応援が必要な場合もある。 ・ミーティング等で反省を活かし職員一人一人が責任を持って役割を果たしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6		・車椅子が通りやすい設計になっている。部屋や廊下もフラットである。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		・パートタイムの方との振り返りの時間を長くとることができないが、フルタイムの方とは目標設定と振り返りが出来ている。 ・ミーティングを行っている為、支援について情報交換出来る。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		・アンケート調査に従って業務や環境設定の改善を行っている。 ・アンケートを振り返り業務改善を行っている。 ・1年に一度はアンケートを実施し意向の把握に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		・公開している。 ・ホームページにて公開を行っている。	・ホームページに公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1	・外部評価は行っていない。	・外部評価は行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		・施設内研修への参加を促している。 ・心肺蘇生法やメンタルヘルス研修をはじめとする内部外部の研修に参加する機会がある。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		・子どもに合った、また保護者の意見要望が反映されている。 ・子どもの送り迎えの際などで日々の声を細やかに拾うことが出来ている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		・職員で提案しあい、内容や注意点など話し合いながら立案している。 ・チームでの活動や個別活動を考え、柔軟に対応を行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		・例年の活動プログラムを参考にしているが今の利用する子どもに合わせて考えている。 ・子どもの様子に応じた活動を取り入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		・長期休暇での細やかな課題設定は難しいが、その時の状況に応じて支援の方向性を修正できている。 ・その都度、確認を行いながら成長過程を共有できている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6		・個々の力も集団の中での力も伸ばせる活動プログラムになっている。 ・一人一人に合わせて個別や集団での活動を行うように作成を行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		・ミーティングを行い、昨日の反省を含んでその日の支援に繋げる事ができている。 ・前日の振り返りと当日の打ち合わせを行っている。 ・朝のミーティングで前日の反省やその日の役割分担について確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	・翌日に必ず前日の振り返りから行っている。 ・支援終了後は時間的に難しい為次の日必ず行っている。 ・次の日に振り返りを行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		・ケース記録の徹底を行っている。 ・毎日の記録を行い、支援の在り方や改善に繋げることができている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6		・概ね3か月～6か月毎に行っている。 ・定期的にモニタリングを行い、保護者のニーズや成長に合わせて見直し出来ている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援管理責任者が参加している。</li> <li>・児発管が参加している。</li> </ul>	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と細やかな情報共有が行えている。</li> </ul>	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケアが必要な子供はいない。</li> <li>・医療的ケア児はいない。</li> <li>・職員間での緊急時の対応について話し合いが出来ている。</li> </ul>	・医療的ケアが必要な利用者なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じてケア会議を行っている。</li> </ul>	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援事業所と連携して対応を行っている。</li> <li>・相互に情報共有を行うことが出来ており、助言を支援に活かしている。</li> </ul>	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休暇には地域の高校生がボランティアとして交流を行う機会を設けている。</li> <li>・コロナウイルスの関係で現在実施していない。</li> <li>・感染症流行に伴い難しい状況にある。</li> </ul>	・新型コロナウイルスの感染状況により、状況を鑑みながら検討する必要がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡ノートやお迎えの際お話ししている。</li> <li>・生活に関わる言葉や支援に関する言葉は共通認識の物を使っている。</li> <li>・日々の状況についてその都度伝え、共通理解に努めている。</li> </ul>	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悩みや相談にはしっかり耳を傾け早急な対応に心掛けている。</li> </ul>		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約等の説明では丁寧な説明を心掛けている。</li> </ul>	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症流行に伴い、難しい状況にある。</li> <li>・保護者会等の交流の場を設けるのは難しいと感じる。</li> </ul>	・内容について検討していく必要あり。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見要望に対して早急な対応を行っている。</li> <li>・日頃から丁寧な対応、支援に努めている。</li> </ul>	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に広報を発行している。事業所での活動の様子は、写真を交えて伝えている。</li> </ul>	
	35	個人情報に十分注意している	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有でも気を付けている。</li> </ul>	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援伝達の為に共通認識のある言葉を使うようにしている。</li> <li>・その子に合ったコミュニケーションの取り方を工夫している。</li> </ul>	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しずつコロナ以前の行事に戻りつつあるが、まだ難しいと感じる。</li> <li>・感染症対応の為、住民の招待等は出来ていない。</li> </ul>	・法人内で感染症の状況を鑑みながら状況に応じた対応を検討していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	・職員に周知はあるが、保護者への周知はできていない。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	・定期的に防災訓練を行っている。	・広報などを有効活用し、事業所で行っていることを伝えていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	・法人内の研修への参加や会議録の確認を行っている。 ・虐待防止に関する唱和を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	・やむを得ない身体拘束に至らないように支援会議を重ねている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	・食物アレルギーのある子は現在いない。 ・現在食物アレルギーに配慮する利用者はいない。	・現在食物アレルギーに配慮する利用者はいないが、必要に応じて対応する
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	・共有できている。	